

《国際雪像コンクール 2017》

ポーランド雪像チームを訪問して

第68回さっぽろ雪まつり第44回国際雪像コンクール(2017.2.5-9、大通西11丁目国際広場)に、シロンスク県ザブジェ市から、カトヴィツェ美術大学のコツランガ教授をリーダーとする Team Snow Art Poland が2年ぶり2度目の参加、その作品(Pressure 重圧)は第4位に輝きました。

「人の目に見えている既存の物体のサーフェイスを忠実に模写する雪像パフォーマンス」という、これまでの私の雪まつり観が根底から覆された。

大通西11丁目の国際雪像コンクール会場のポーランドブースでは、リーダーの彫刻家コツランガさんをはじめ、写真家のムスハリクさん、グラフィックデザイナーのプロバさんからなるアーティスト集団が無言で雪を削っていた。「我々はポーランドから来たからといって特別な文化を披露するのでも、日本人たちに固有のメッセージを発するのでもなく、人種や国境を超えた人間社会全体に対するメッセージである」とコツランガさんは言う。

「頭」と「肉体」が切り離された彼の作品には、人間の行動の軌跡と現代人の営みの本質にある隠さ

れた欲望が見え隠れしている。今回の作品「重圧」においては、現代の人々すべてが平等に担う過酷な重荷を表現する一方、その先には苦悩を耐え抜いたあとに待つ希望が見えるように思える。

無言で雪を刻む彼らには言葉は必要ないと言う。なぜなら、沸き起こる彼らの内面のすべてを、何にも優って彼らの彫刻作品自体が物語っているからだ。巨大な作品を真剣な眼差しと肉体を駆使して仕上げ、ゆく彼らの姿勢の向こう側には、人の目には見えない内面からの表現を吐露した瞬間の喜びと、それを人々と分かち合う喜びの笑顔がもうすぐそこに見えている。

雪まつり会場の一角に本物のアーティストの姿を見た。(松山 敏)



(左・左から) Tomasz Koclega 教授, Piotr Muschalik, Piotr Proba, Jacek Czarnuch, Junko Fujimori (©松山敏、尾形芳秀)

北海道ポーランド文化協会の皆様

さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール期間中には、沢山の会員の皆様に会場まで足を運んでいただき、暖かいお言葉、心のこもった差し入れを頂き、本当にありがとうございました。

チームを代表して、改めて御礼申し上げます。

皆様の暖かい激励のおかげで、4位入賞することができました。いい結果であったとは言い切れませんが、無事入賞を果たしほっとしております。

札幌の滞在期間が短かったこと、また、日中の気温が高かったため作業が夜に集中して行われたことなどで、せっかくお誘いいただいた交流会に参加が叶わず申し訳ございませんでした。

来年は是非日程に余裕を持たせ、皆様とゆっくりとお話できる機会が設けられればと存じます。

ポーランドにお越しの際、もしシロンスク地方(Katowiceを中心とした地方で、私たちはこの Gliwice,

Zabrze という街に住んでいます)に足を運ばれるご予定がありましたら、是非ご連絡ください。

また再会できる日を楽しみにしております。

皆様のご多幸を祈念しております。

Snow Art Poland

リーダー Tomasz Koclega (代筆 藤森順子)

<https://www.facebook.com/snowartpoland/>

2017年冬、Snow Art Poland チームはロシアのクラスノヤルスク(第5回大会、観客賞受賞=写真左=)、フランスのヴァロワール(第34回大会=写真右=)の雪像コンクールにも参加しました。

